

ServerView Suite
ServerView Operations Manager
補足情報

目次

■ はじめに	1
■ 対象バージョン	1
■ 補足情報	1
1 インストール要件	1
1.1 名前解決の設定	1
1.2 JRE のインストール	2
1.3 JRE の設定	2
1.4 ネットワークポートの設定	3
2 インストール	3
2.1 ディレクトリサービスに Active Directory を使用している場合のアップデートインストール	3
3 アンインストール	3
3.1 パフォーマンスマネージャのレポート設定	3
3.2 snmptrapd.conf の定義	3
4 サーバリストの管理	4
4.1 サーバ名に使える文字	4
4.2 マネジメントブレードの登録	4
4.3 LAN 冗長化を行っている場合の設定	4
4.4 サーバリストのエクスポート	4
4.5 Citrix XenServer の監視	4
5 アラームモニタ	5
5.1 SNMP バージョン	5
5.2 サーバ情報	5
6 アラーム設定	5
6.1 アラームルール名・アクション名	5
6.2 プログラム実行	5
7 サーバデータの詳細表示(シングルシステムビュー)	5
7.1 ASR&R の設定	5
7.2 診断情報収集(PrimeCollect)	5
8 MIB インテグレータ	6
8.1 ネットワーク機器からのトラップ	6
9 その他	6
9.1 SVOM がアクセスするネットワークポート	6
9.2 サーバ名および IP アドレス変更後の操作	6
9.3 ログインユーザのパスワードに使用可能な文字	7
9.4 SVOM 及び Agents に必要なユーザ設定	7
9.5 SVOM サービス停止中の注意	9

9.6	関連ファイルの編集.....	9
9.7	JRE のアップデート	9
9.8	Network Node Manager との連携	9
9.9	システムバックアップ	10
9.10	ディレクトリサービスを変更する場合の操作.....	10
9.11	cron に登録されるジョブ	10
9.12	追加されるユーザ/グループ	11
10	トラブルシューティング	11
10.1	接続テストが正常とならない	11
10.2	サーバが管理不可能と表示される	12
10.3	HTTP 500 や HTTP 404 のエラーが表示される.....	15
10.4	SVOM の画面読み込みに時間が掛かる。	16
10.5	SVOM から監視対象サーバにログイン出来ない	17

■ はじめに

本書は、ServerView Operations Manager V6 に関する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ServerView Operations Manager V6.xx (sv-operations-mgr-jp.pdf)
- ServerView Operations Manager V6.xx Installation under Linux (sv-install-linux-jp.pdf)
- ServerView Operations Manager V6.xx Installation under Windows (sv-install-windows-jp.pdf)
- ServerView Event Manager (sv-event-mgr-jp.pdf)
- ServerView Inventory Manager (sv-inventory-mgr-jp.pdf)
- ServerView Threshold Manager (sv-threshold-mgr-jp.pdf)
- ServerView Archive Manager (sv-archive-jp.pdf)
- ServerView Performance Manager (sv-performance-jp.pdf)
- Base Configuration Wizard (sv-base-config-wizard-jp.pdf)
- ServerView Online Diagnostics (sv-onldiag-jp.pdf)
- PrimeCollect (sv-primecollect-jp.pdf)
- ServerView でのユーザ管理 (user-mgt-jp.pdf, sv-user-mgt-jp.pdf)

※マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります

■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView Operations Manager(以下 SVOM)を対象にしています。

本書の対象バージョン : **V6.00、V6.10**

V5.00～V5.51については、ServerView Operations Manager 補足情報[001-009版]を参照してください。

■ 補足情報

1 インストール要件

▶ Windows/Linux 共通

1.1 名前解決の設定

V5.00 以降では、ブラウザからアクセスする際に、SVOM がインストールされたサーバのホスト名(ネットワーク上のコンピュータ名)もしくは「<ホスト名>.<DNS サフィックス>」を名前解決できるように設定されている必要があります。DNS サーバの設定や、もしくは端末側の hosts ファイルにサーバのホスト名もしくは<ホスト名>.<DNS サフィックス>と IP アドレスを追加するなどして、名前解決できるように設定してください。

SVOM をインストールしたサーバにおいても、SVOM にブラウザでアクセスする場合には、自分自身のホスト名もしくは<ホスト名>.<DNS サフィックス>が名前解決できるように設定されている必要があります。

す。

以下の方法で、名前解決が出来ているか確認してください。

・Windows の場合

tracert <ホスト名>.<DNS サフィックス>

例)

tracert svomserver.psd.cs.fujitsu.co.jp

・Linux の場合

traceroute <ホスト名>.<DNS サフィックス>

例)

traceroute svomserver.psd.cs.fujitsu.co.jp

1.2 JRE のインストール

SVOM が動作する為には、サーバ側(SVOM をインストールするサーバ)にも、クライアント側(ウェブブラウザで SVOM を表示する端末)にも、JRE(Java Runtime Environment)をインストールする必要があります。

Windows の場合、それぞれにインストールする JRE は 32bit 版である必要があります。OS が 64bit 版だったとしても、32bit 版の JRE をインストールしてください。

Linux の場合で SVOM のバージョンが V5.10 以前の場合、それぞれにインストールする JRE は、Windows の場合と同様に OS が 64bit 版だったとしても、32bit 版の JRE をインストールしてください。SVOM のバージョンが V5.30 以降の場合、OS と同じアーキテクチャ(32bit には 32bit、64bit には 64bit)の JRE をインストールしてください。

尚、SVOM のバージョンが V6.00 以前の場合、JRE のバージョン 7 はサポートしていません。

▶ Windows

1.3 JRE の設定

JRE(Java Runtime Environment)がバージョン 6 アップデート 19 以降の場合、Java コントロールパネルにて、「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックを入れてください。

SVOM V4.92 では、この項目のチェックをはずす必要がありましたが、バージョン V5.00 以降の SVOM ではチェックを入れてください。

この項目は、デフォルトではチェックが入っています。以下の方法で確認します。

1. コントロールパネルから、Java コントロールパネルを開きます。
2. 「詳細」タブを選択します。

3. 「設定」-「Java Plug-in」を開きます。
4. 「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックが入っていることを確認します。

1.4 ネットワークポートの設定

Windows Server 2008 の動的ポート割り当て設定で、開始ポートを変更すると SVOM／Agents が使用するポートと競合し、SVOM、Agents が起動出来なくなる場合があります。

開始ポート設定を変更する場合、SVOM／Agents の使用ポートと競合しない様に注意してください。

2 インストール

▶ Windows

2.1 ディレクトリサービスに Active Directory を使用している場合のアップデートインストール

SVOM が使用するディレクトリサービスに Active Directory を使用している場合で、アップデートインストールを行った場合、SVActiveDirectory.ldif を再度インポートする必要があります。

SVActiveDirectory.ldif のインポート方法の詳細は、マニュアル「ServerView でのユーザ管理」(sv-user-mgt-jp.pdf)の「ServerView ユーザ管理の Microsoft Active Directory への統合」を参照してください。

3 アンインストール

▶ Windows/Linux 共通

3.1 パフォーマンスマネージャのレポート設定

パフォーマンスマネージャのレポートを設定したまま SVOM をアンインストールすると、SVOM—Agents 間に設定の差異が生じます。SVOM をアンインストールする前に、必ずレポートの設定を解除してください。

▶ Linux

3.2 snmptrapd.conf の定義

SVOM をインストールした際、/usr/share/snmp/snmptrapd.conf に以下の行が追記されます。この行は SVOM をアンインストールした場合でも、削除されず残ったままとなります。

```
traphandle default
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/cgi-bin/ServerView/SnmpTrap/SnmpTrapListen
```

※本書ではページの都合で 2 行で記載されていますが、実際には上記が 1 行で記載されます。

古いバージョンの SVOM をインストールしたことがある場合、古いパスの情報が残ったままとなるので、

古いパスの情報は消してください。

4 サーバリストの管理

▶ Windows/Linux 共通

4.1 サーバ名に使える文字

サーバを登録する時、「サーバ名」を変更することができます。その場合、サーバ名に日本語や、記号 ("'" # & ~ | ¥ + * ? / ; , ()など) 、空白は使用しないでください。

4.2 マネジメントブレードの登録

マネジメントブレードをサーバリストに登録すると、配下のサーバブレードが監視可能となります。この場合、サーバブレードの IP アドレスはマネジメントブレードから自動的に取得されます。

マネジメントブレードは、サーバブレードに搭載されている LAN ポートを、MAC アドレスの小さい順、かつ、通信可能な順で IP アドレスを認識します。そのため、LAN ポートの状態変化によっては、サーバリスト上の監視 IP アドレスが変動することがあります。

IP アドレスの変動を避けるには、サーバのプロパティのブレードのネットワークアドレス設定でブレードにこのアドレスをいつも使用するにチェックを付け、指定可能なアドレスで監視 IP アドレスを選択して下さい。

4.3 LAN 冗長化を行っている場合の設定

サーバブレードでチーミングなどの LAN 冗長化を行っている場合、マネジメントブレードをサーバリストに登録した際に LAN 冗長化を行っているサーバブレードの IP アドレスが 0.0.0.0 と表示される場合があります。この場合、冗長化を行っているサーバブレードは独立したサーバとしてサーバリストに個別に登録してください。

4.4 サーバリストのエクスポート

サーバリストをエクスポートしたファイルは他サーバでもインポートすることができます。データベースや OS が違っていてもインポートすることができます。

ただし、Linux にインストールされた SVOM へインポートする場合は、Windows (Internet Explorer) で Linux の SVOM へアクセスしてインポートしてください。

エクスポートしたバージョン以降の SVOM にのみ、ファイルをインポートすることができます。

4.5 Citrix XenServer の監視

XenCenter のプールサーバで管理されている仮想サーバに対して、SVOM を使用して監視する場合、XenCenter で使用している管理者権限のユーザーアカウント(rootなど)を SVOM の「ユーザ/パスワード」に追加する必要があります。

なお、XenCenter の設定内容については、XenCenter の入手先へ確認してください。

5 アラームモニタ

▶ Windows/Linux 共通

5.1 SNMP バージョン

SVOM は SNMPv1 に準拠したトラップのみをサポートしています。

5.2 サーバ情報

アラームモニタのサーバの情報タブで表示される情報は、サーバリストに登録したサーバの設定情報が表示されます。トラップ情報ではありませんのでご注意ください。

※サーバリストに登録されていないサーバからのトラップの場合、ここで表示されるコミュニティ名は「public」となります。

6 アラーム設定

▶ Windows/Linux 共通

6.1 アラームルール名・アクション名

アラームルール名、及びアクション名には日本語は使えません。

また、アラームルール名に空白を使用することはできません。(例: 「test rule」)

6.2 プログラム実行

アクションの割り当ての「プログラム実行」で利用できるコマンドは CUI コマンドに限られます。

7 サーバデータの詳細表示(シングルシステムビュー)

▶ Windows/Linux 共通

7.1 ASR&R の設定

ASR&R の設定内容は、SVOM/Agents には保持されません。サーバ本体の BIOS／BMC(RSB／iRMC)に格納されます。

7.2 診断情報収集(PrimeCollect)

診断情報収集(PrimeCollect)を実行した際、CAS サーバエラーや証明書エラーなどが表示され正常に動作しない場合があります。この場合、以下の内容を確認してください。SVOM にアクセスするブラウザを実行している監視端末も対象となります。

・SVOM と対象サーバの間でネットワークポート 3170 番と 3172 番が開放されていること。

- ・対象サーバから SVOM に対して名前解決が正しく行なわれていること。
- ・SVOM の証明書と対象サーバの証明書の整合性が取れていること。

8 MIB インテグレータ

▶ Windows/Linux 共通

8.1 ネットワーク機器からのトラップ

ネットワーク機器の MIB ファイルを登録することによって、その機器から送られたトラップの表示および、受信したトラップに対する動作の設定を行うことができます。

尚、あらかじめ対象のネットワーク機器をサーバリストに登録しておく必要があります。登録する際、サーバの種類は「Other」とします。

9 その他

▶ Windows/Linux 共通

9.1 SVOM がアクセスするネットワークポート

SVOM は SVOM のサーバブラウザ画面において、サーバを検索する際に、サーバブラウザ画面で指定したサブネット内のサーバに対して、以下のネットワークポートへアクセスを行います。

80, 135, 161, 443, 623, 3172, 5988, 5989, 9363, 16509, 16514

同じくサーバブラウザ画面で、サーバを登録する際には登録するサーバの上記ネットワークポートにアクセスを行います。またサーバを登録後は、登録されたサーバに対して、上記ネットワークポートにアクセスを行います。

SVOM は、ネットワークポートが共有されていても問題が起きない構造としておりますが、指定したサブネット内、及び SVOM に登録したサーバで上記ネットワークポートへのアクセスを占有したい等の理由で不都合がある場合には、不都合のあるプロダクト側でポートを移動するなどの対処を行ってください。

※サーバの種類や OS によって、上記のアクセスが行われない場合があります。

9.2 サーバ名および IP アドレス変更後の操作

インストールしたサーバの IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した場合、以下を実行する必要があります。

Windows 環境の場合、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」(Windows 2003 の場合)もしくは「プログラムと機能」(Windows 2008 の場合)で、V6.00 の場合は「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択して、「変更」ボタンをクリックします。変更インストールのダイアログが表示されますので、メッセージに従って操作を行います。V6.10 以降の場合は「Fujitsu ServerView

JBoss Application Server」を選択して、「変更」ボタンをクリックして変更インストールを実施し、その後続けて「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択して変更インストールを実施します。

Linux 環境の場合、以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/fujitsu/ServerViewSuite/svom/ServerView/Tools/ChangeComputerDetails.sh
```

変更後の設定を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って入力を行ってください。

また、サーバリストに変更前のサーバ名や IP アドレスが監視対象として残ったままとなる場合があります。その場合、SVOM が変更前の IP アドレスへアクセスし続けることになりますので、次の方法で変更前のサーバ名及び IP アドレスの監視エントリを削除してください。

1. サーバリストより削除対象のサーバ名を選択し、右クリックします。
2. メニューから「削除」をクリックします。

9.3 ログインユーザのパスワードに使用可能な文字

ログインユーザのパスワードには、半角英数記号が使用可能です。ただし、UserAdministrator 権限を持つユーザが他のユーザのパスワードを設定する場合「"(ダブルコーテーション)"」を使用することはできません。その他の権限を持つユーザが自分自身のパスワードを設定する場合は、「"」も使用可能です。

9.4 SVOM 及び Agents に必要なユーザ設定

SVOM を運用するにあたって以下の 4 種のユーザ設定が存在します。

- (1) SVOM のログインに用いられるユーザ設定
- (2) SVOM から監視対象の Agents に値を設定する際に必要なユーザ設定
- (3) SVOM が監視対象の OS/iRMC/ETERNUS DX に接続する際に用いられるユーザ設定
- (4) SVOM のサービスに関連するユーザ設定

以下にこれらを説明します。

(1) SVOM のログインに用いるユーザ設定

- SVOM の起動画面で入力を求められます。
- SVOM の参照する OpenDS(デフォルト)または ActiveDirectory に設定されています。
- OpenDS を使用している場合、ユーザ名に以下の文字は使用することができません。
 - "=|[]:/*;+,<>?/
 - 空白
 - 日本語等の 2 バイト文字
- OpenDS を使用している場合、パスワードに以下の文字は使用することができません。
 - "=|[]:/*;+,<>?/
 - 空白

(2) SVOM から監視対象の Agents に値を設定する場合に必要なユーザ

- SVOMにおいて以下を実施する場合にユーザ名/パスワードを求められます。
 - 表示識別灯を点灯させる場合
 - 「サーバの設定」画面でツリーから各サーバを選択した場合。
 - パフォーマンスマネージャ画面で、レポートセットを作成し、「サーバへの適用」を実行した場合。
- 監視対象の Agents で上記の操作を許可するグループを設定します。上記の操作を行う場合、表示されるダイアログに、監視対象の Agents で設定したグループに所属するユーザ/パスワードを入力します。

監視対象の Agents で上記の操作を許可するグループの設定は、以下の方法で行います。

➢ ServerView Agents for Windows の場合

1. 「Agent Configuration」を起動します。

スタート - [すべてのプログラム] - [Fujitsu] - [ServerViewSuite] - [Agents] - [AgentConfiguration]から起動します。

2. 「セキュリティ設定」タブを開きます。

3. 「パスワードによる保護を有効にする」にチェックを入れます。

この項目にチェックを入れていない場合、上記の操作を行う場合にもユーザ名/パスワードは求められません。

4. 「ユーザグループ」に任意のグループ名を入力します。

SVIMを使用して Agents をインストールした場合、もしくはインストールウィザードのセットアップレベル画面で選択肢を選ばずにインストールした場合、"FUJITSU SVUSER"が入力されています。

この項目に何も入力せずに空白を設定した場合は、Administrators グループに所属するユーザが上記の操作を行うことができるようになります。

5. 「適用」ボタンをクリックします。

➢ ServerView Agents for Linux の場合

ファイル「/etc/srvmagt/config」の「UserGroup」に任意のグループ名を設定します。その後、ServerView Agents for Linux を再起動します。

デフォルトでは、以下の値が設定されています。

UserGroup=svagtuser

(3) SVOM が監視対象の OS/iRMC/ETERNUS DX に接続するためのユーザ

- SVOMにおいて以下を実施する場合に、予め SVOM の画面の「管理者設定」 - 「ユーザ/パスワード」に対象のサーバの OS にログイン可能なユーザ名とパスワードを設定しておく必要があります。

- サーバリスト上から「電源制御」を行う場合
- 仮想 OS のホストをサーバリストに登録する場合
- スレッシュホールドマネージャを使用する場合
- シングルシステムビューの項目「パフォーマンス」を有効にする場合
- ストレージ情報を表示する場合

(4) SVOM のサービスに関するユーザ

- Windows 環境に SVOM をインストールする際に、SVOM のサービスである「ServerView JBoss Application Server」及び「ServerView Download Service」を実行するユーザを設定する必要があります。
- 通常、インストール時以外には設定 / 変更の必要はありません。

9.5 SVOM サービス停止中の注意

バックアップなどの採取により SVOM 関連のサービスを停止している間は、サーバの監視やトラップの受領などが行われません。

9.6 関連ファイルの編集

SVOM/Agents 関連ファイルの編集、追加、削除などは、動作に影響を及ぼす可能性がありますので、マニュアルに記載されている内容以外は一切行わないでください。

▶ Windows

9.7 JRE のアップデート

JRE(Java Runtime Environment)をアップデートする場合、ServerView Operations Manager の以下のサービスを停止してから、JRE のアップデートを行ってください。

以下に記載の順番に、サービスを停止してください:

1. ServerView Download Service
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1 または ServerView JBoss Application Server 7

JRE をアップデートした後、以下の通り、停止したのと逆の順番でサービスを開始してください:

1. ServerView JBoss Application Server 5.1 または ServerView JBoss Application Server 7
2. ServerView Services
3. ServerView Download Service

9.8 Network Node Managerとの連携

ServerView Suite DVD V10.10.07 以降より、NNM(Network Node Manager)連携モジュールの提供は行っていません。

以降のバージョンにてトラップ連携を行う場合には、利用者作業にてメッセージ変換ファイルの修正/作成を行って下さい。

参考資料情報

『HP OpenView ネットワークノードマネージャ ネットワーク管理ガイド』

『HP OpenView ネットワークノードマネージャ 登録ファイルガイド』

『NNM リファレンスページ』の trapd.conf 項目

ServerView の MIB は、ServerView Suite DVD に格納されている下記 MIB パッケージより入手可能です。

¥SVSSoftware¥Software¥ServerView¥MIBs¥

9.9 システムバックアップ

SVOM は常時ファイルの書き換えやデータベースへのアクセスを行っています。システムバックアップ時には、必要に応じて以下の順に SVOM のサービスを停止してください。

1. ServerView Download Service
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1 または ServerView JBoss Application Server 7
4. ServerView Remote Connector
5. SQL Server (SQLSERVERVIEW)
または
MSSQL\$SQLSERVERVIEW

※起動は上記と逆順で行います。

9.10 ディレクトリサービスを変更する場合の操作

Active Directory サーバを変更する場合など、使用するディレクトリサービスを変更する場合は、「10.2 サーバ名および IP アドレス変更後の操作」と同様の操作を行い、『ディレクトリサーバの選択』ダイアログでディレクトリサービスの設定を変更してください。

▶ Linux

9.11 cron に登録されるジョブ

定期的にデータのバックアップを行うため次のジョブが cron に登録されます。

ジョブ説明:

Weekly 1 週間(曜日、時刻はシステム稼働に依存)ごとにデータベースをバックアップします。

Daily 1 日(時刻はシステム稼働に依存)ごとにデータベースの差分をバックアップします。

これらのジョブを、cron から削除したり、無効にしたりしないでください。動作時刻はシステムの稼働状況に依存します。詳しくは、cron の仕様を確認してください。

バックアップデータは、次のディレクトリ配下に格納されます。

/var/fujitsu/ServerViewSuite/ServerViewDB/backup

9.12 追加されるユーザ/グループ

SVOM をインストールすると、ユーザ: svuser, postgpls、グループ: svgroup, postgpls が作成されます。

これらユーザ/グループのユーザ ID、グループ ID、ログインシェル、ホームディレクトリなどの変更は、動作に影響を及ぼすので、一切行わないでください。

10 トラブルシューティング

▶ Windows/Linux 共通

10.1 接続テストが正常とならない

- すべての項目が正常にならない場合

状況	原因	対処
PING の通信ができていません。	LAN が接続されていない、または LAN の接続経路が確立されていない場合があります。	PING が通りますか？ PING を有効にしてください。PING の応答がない場合、接続テストは実行されません。PING が通るように LAN 環境を見直してください。
	対象のサーバがファイアウォールで通信遮断されている場合があります。	

- 「SNMP」の項目が正常にならない場合

状況	原因	対処
SNMP サービスから応答がありません。	ファイアウォールなどで SNMP(ポート 161/162)通信が遮断されていませんか？	ファイアウォールの設定を確認してください。
	SNMP Service サービスは起動していますか？	SNMP Service サービスを起動してください。
	SNMP Service サービスの設定で管理サーバの IP からの書き	SNMP の設定(SNMP Service サービスのプロパティ、snmpd.conf)を確認してください。

	込みが抑止されていませんか？	い。
--	----------------	----

- 「ノードタイプ」の項目が正常にならない場合

状況	原因	対処
ServerView Agents から応答がありません。	ServerView Agents がインストールされていますか？	ServerView Agents をインストールしてください。
	ServerView Agents のサービス(ServerView Server Control サービス、eecd サービス)が起動していますか？	ServerView Agents のサービスが停止している場合は起動してください。 ServerView Agents のサービスが起動している場合は、再起動してください。

- 「テストラップ」の項目が正常にならない場合

テストラップを受けていないのか、受けているが正常にならないのか確認をしてください。

状況	原因	対処
トラップを受けていません。	管理サーバからトラップを受け付ける設定になっていますか？	管理サーバ側の SNMP Trap サービスが起動しているか確認してください。 SNMP の設定(SNMP Service サービスのプロパティ、snmpd.conf)を確認してください。
	対象サーバのトラップ送信先はありますか？	対象サーバ側の SNMP の設定 (SNMP Service サービスのプロパティ、snmpd.conf)で送信先を確認してください。

10.2 サーバが管理不可能と表示される

サーバが管理不可能と表示された場合は、次の項目を確認してください。

- ネットワーク環境の確認項目
 - ・ LAN ケーブルが正しく接続されていますか？ LAN ケーブルを正しく接続してください。
 - ・ ネットワーク機器(ルータ、HUB など)は正常に動作していますか？ ネットワーク機器を確認してください。
 - ・ 「監視対象サーバ」←→「SVOM をインストールしたサーバ」間のネットワーク機器において、SNMP プロトコルの通信ポート(udp 161 番、及び udp 162 番)が遮断されていませんか？ 遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。
- SVOM をインストールしたサーバの確認項目
 - ・ 監視対象サーバに対して、ping が通りますか？ ping が通らない場合、ネットワーク周りの設定を確認してください。
 - ・ 監視対象サーバの IP アドレスは正しいですか？ 監視対象サーバの IP アドレスを確認し、正しい IP アドレスを設定してください。
 - ・ 監視対象サーバで設定されている SNMP Service サービスのコミュニティが、「サーバのプロパティ」→「ネットワーク／SNMP」タブ→「コミュニティ名」に設定されていますか？ コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
 - ・ ネットワークあるいはコンピュータの負荷が高い場合、時間内に処理が終了せず、「管理不可能」アイコンが表示される場合があります。この場合は、次の手順でポーリング間隔、タイムアウト値、更新間隔を変更することで、負荷を低減し、タイムアウト値の延長を行うことができます。
 1. 「サーバの一覧」から問題があるサーバを右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」→「ネットワーク／SNMP」タブの順にクリックします。
 2. 環境に合わせて設定値を変更します。

項目	説明
ポーリング間隔	サーバをポーリングする時間の間隔です。ここで指定した間隔ごとに、システムの情報をサーバに要求します。(デフォルト 60 秒)
タイムアウト	要求に対するサーバからの応答に待機する時間です。(デフォルト 5 秒)
更新間隔	表示内容を更新する間隔です。(デフォルト 60 秒)

- これらの項目の適切な値は、負荷の状況によって異なります。何度か設定を試してみて最適な値を決定してください。
- タイムアウト値に大きすぎる値を設定すると、本当に管理不可能な場合の反応も遅れてしまします。大きすぎる値(12 秒以上)は設定しないようにしてください。

- 監視対象サーバ(Windows)の確認項目
 - ・ ファイアウォールにより、ICMP(PING)または SNMP ポート(udp 161 番)が遮断されていませんか？ 遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。ファイアウォールの詳細について

は、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- ・ ServerView Agents がインストールされていますか？インストールされていない場合は、インストールしてください。
- ・ SVOM で、「サーバのプロパティ」に設定した SNMP コミュニティ名が、「SNMP Service」のプロパティに設定されていますか？コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
- ・ ServerView Agents(SNMP Service サービス、ServerView Server Control サービス)が起動していますか？起動していない場合、起動してください。
- ・ ServerView Agents(SNMP Service サービス、ServerView Server Control サービス)が正常動作していない可能性があります。ServerView Agents を再起動してください。再起動しても、解決しない場合は、ServerView Agents を再インストールしてください。
- ・ SNMP を使用する他製品の影響により、管理不可能となっている可能性があります。他製品の SNMP を無効化してください。

- 監視対象サーバ(Linux)の確認項目

- ・ ファイアウォールにより、ICMP(PING)またはSNMP ポート(udp 161 番)が遮断されていませんか？遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルをご覧ください。なお、OS 標準のファイアウォール(パケットフィルタ)としては、iptables、tcpwrapper(/etc/hosts.deny, /etc/hosts.allow)などがあります。
- ・ ServerView Agents がインストールされていますか？インストールされていない場合は、インストールしてください。
- ・ SVOM で、「サーバのプロパティ」に設定した SNMP コミュニティ名が、snmpd.conf に設定されていますか？コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。
- ・ ServerView Agents(snmpd, eecd, srvmagt, srvmagt_scs)が起動していますか？起動していない場合、起動してください。
- ・ ServerView Agents(snmpd, eecd, srvmagt, srvmagt_scs)が正常動作していない可能性があります。ServerView Agents を再起動してください。再起動しても、解決しない場合は、ServerView Agents を再インストールしてください。
- ・ SNMP を使用する他製品の影響により、管理不可能となっている可能性があります。他製品の SNMP を無効化してください。
- ・ snmpd.conf の中に「com2sec svSec localhost <SNMP コミュニティ名>」行がない可能性があります。この行がない場合は追加してください。

10.3 HTTP 500 や HTTP 404 のエラーが表示される

- Java Runtime Environment(JRE)がインストールされていることを確認してください。
- SVOM が使用するネットワークポートが他のプログラムによって占有されていないか確認してください。

SVOM が使用するネットワークポートは、マニュアル「ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Windows」(sv-install-windows-jp.pdf)、もしくは「ServerView Operations Manager V5.xx/V6.xx Installation under Linux」(sv-install-linux-jp.pdf)を参照してください。(マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります)

- SVOM をインストールしたサーバの名前解決ができるかを確認してください。
サーバ側 (SVOM をインストールするサーバ) と、クライアント側(ウェブブラウザで SVOM にアクセスする端末)の両方で、名前解決ができるように設定されている必要があります。
以下のコマンドを実行して、正常に名前解決が行われているかを確認します。

Windows の場合

```
tracert <サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス >
```

Linux の場合

```
traceroute < サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス >
```

- インストール時にファイルが正しくコピーされなかった可能性があります。
一旦アンインストールして、インストール先のフォルダ内のファイル・フォルダを全て削除した後、再度インストールを行ってください。
- SVOM と同じサーバに「Interstage Application Server(IAS)」がインストールされていた場合、
以下を行ってください。尚、SVOM を上位のバージョンへのアップデートを行ったり、同一バージョンにおいて変更インストールを行うと、以下で編集したファイルが書き換えられて編集前の状態に戻ります。アップデートや変更インストールを行った場合、再度以下の編集を行ってください。

<ファイル>

```
<SVOM インストールフォルダ>¥ServerView Suite¥boss¥bin  
run.conf.bat
```

例) •32 ビット版 Windows OS の場合

```
C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥boss¥bin
```

•64 ビット版 Windows OS の場合

```
C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥boss¥bin
```

<変更箇所>

- SVOM のバージョンが V5.30 以前の場合

```
rem set "JAVA_HOME=C:¥opt¥jdk1.6.0_13"
```

この行のコメントアウトをはずして、正しい JRE 1.6 のパスを設定してください。

- SVOM のバージョンが V5.50～V6.00 の場合

以下のように 1 行追加します。

```
for /f "usebackq delims=" %%i in
(`"%JBOSS_HOME%¥server¥serverview¥bin¥getjavahome.exe"`) do set
JAVA_HOME=%%i
set "JAVA_HOME=C:¥opt¥jdk1.6.0_13" ←★この 1 行を追加します
```

「JAVA_HOME=」の後に、正しい JRE 1.6 のパスを設定してください。

追加する行は、上記「for /f "usebackq delims=～」の行の後に記載する必要があります。

また、JRE をアップデートした場合、JRE のパスが変更され、Web サーバが起動できなくなる場合がありますので、その都度、JRE のパスを確認し、変更されていれば書き換えてください。

例) •32 ビット版 Windows OS の場合

```
set "JAVA_HOME=C:¥Program Files¥Java¥jre6"
```

•64 ビット版 Windows OS の場合

```
set "JAVA_HOME=C:¥Program Files (x86)¥Java¥jre6"
```

ファイル編集後、以下の順に SVOM のサービスを再起動してください。

サービスを停止する:

1. ServerView Download Services
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1 または ServerView JBoss Application Server 7

サービスを開始する:

1. ServerView JBoss Application Server 5.1 または ServerView JBoss Application Server 7
2. ServerView Services
3. ServerView Download Services

10.4 SVOM の画面読み込みに時間が掛かる。

Web ブラウザや、JRE の一時ファイル(キャッシュ)に不要なデータが格納されている可能性があります。以下の一時ファイルを削除してください。

- •Web ブラウザのインターネット一時ファイル

Internet Explorer の場合:

[ツール] - [インターネットオプション]を起動し、「全般」タブの「閲覧の履歴」枠で「削除」を開き、インターネット一時ファイルの削除を行ってください。

FireFox の場合:

[ツール] - [オプション]を起動し、「詳細」を選択、「ネットワーク」タブの「キャッシュされた Web ページ」項目にある「今すぐ消去」を実行してください。

- **・JRE のインターネット一時ファイル**

Java コントロールパネルを起動し、インターネット一時ファイルの「設定」より「ファイルの削除」を行ってください。

10.5 SVOM から監視対象サーバにログイン出来ない

SVOM から監視対象のサーバへ設定を行う際、Agents 側サーバの設定によりユーザ ID、パスワードの要求が行われます。この際、ログインが正常に行われずエラーが表示される場合や、再度ログインが要求される場合があります。以下の確認を行って下さい。

- ログインに使用するユーザ ID、パスワードを確認してください

入力するユーザ ID、パスワードはサーバの OS で作成、許可されている必要があります。サーバの OS 上、または監視対象サーバが利用可能なディレクトリサービス上でユーザ ID、およびパスワードの作成を行って下さい。

- ログインに使用するユーザ ID が管理グループに属しているか確認してください

Agents の設定によっては、ユーザ ID は管理グループに属している必要があります。グループの有効設定、およびユーザ ID がそのグループに属している事を確認してください。

以下の Agents ツール、設定ファイルで確認出来ます。

Windows:

Agents Configuration ツール (デフォルトは"FUJITSU SVUSER"グループが設定)

Linux:

/etc/srvmagt/config 設定ファイル (デフォルトは"SVUSER"グループが設定)

- JRE の版数を確認してください

SVOM で使用している JRE バージョンを確認してください。

バージョン 1.6.0_29 では、ログインの制御が正常に動作しない場合があります。1.6.0_29 以外のバージョンを使用してください。

- Agents バージョンを確認してください

ServerView Agents for Windows V5.50 には、正常にログイン出来ない問題があります。

以下の対処を行ってください。

- ① Agents Configuration ツールを起動し、「セキュリティ設定」タブに移動する。
- ② "パスワードによる保護を有効にする"のチェックを外す。
- ③ 「適用」ボタンをクリックする。

※設定以降、パスワードによる保護は行われません。

以上